

会 議 録

1 会議名

令和4年度第5回有田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

- ・地域活性化の方向性について（公開）

3 開催日時

令和4年10月17日（月）午後6時30分から午後7時40分

4 開催場所

上越市カルチャーセンター ミーティングルーム

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 熊木敏夫（会長）、市川 禅（副会長）、五十嵐里枝、池田憲雄、
牛木幸一、内山幸一、栗間良子、高橋邦夫、高橋秀樹、平井弘一郎、
渡辺恵子（欠席者6名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【熊木会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：五十嵐委員、池田委員に依頼
- 議題【協議事項】地域活性化の方向性について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・資料No.1 「「地域活性化の方向性」の検討について」に基づき説明
- ・9月25日発行の地域協議会だよりで募集した地域の皆さんからの意見について報告
本日は、第3回の地域協議会において、班協議にて出していただいた、地域の魅力、特性、次世代へ残したいものを「どうしていききたいか」という方向性や具体的な方法について班別協議をしていただきたい。

【熊木会長】

それでは、各班に分かれて協議をお願いしたい。

— 班別協議 —

(再開後)

【熊木会長】

班別協議で出された意見を各班の発表者から報告していただく。

【市川副会長】

A班の協議内容を発表する。

○魅力について

空き家を減らす。

よい環境を活かすために、これから交通弱者が増えてくるので、そういった人も利用しやすい交通手段。

若い世代が多く、学校コミュニティが盛んで雰囲気が良いが、子どもの学習塾以外の勉強する場所が少ない。

具体的な方法としては、空き家・空き地については、リモートワークなどもあるので、ワーキングスペースとして活用する。

環境を活かすためには、誰でも利用できるコミュニティバスのような簡単な移動手段があると良い。

子どもの学習場所は、地域の先輩方にお手伝いいただいて、楽しく学べる場所ができると良い。

○特性・個性について

いろいろな国籍、世代の人がいるので魅力をどう伝えるかは、有田区として、文化的な取組、活動グループを育成して、演劇・音楽などの発表する場所を用意する、実践できるイベントを開催していく。

防災に力を入れていく部分は、その地区に特化した、貼れたりして簡単に見られるパ

ンフレットのようなものがあると良いのではないか。また、防災訓練など楽しく学べる防災キャンプなどを実施したらどうか。

○次世代に残していきたいものについて

祭りについては、有田区として合同で開催したらどうか。

歴史・文化を伝える意味で、子ども向けに伝える。また、現状で実施しているものを継続していけるようにする。

具体的な方法としては、SNSで発信してもらおう。地域の町内会で発信するのではなく、若い世代の人たちに自主的に発信してもらおうような仕組みや呼びかけをしたらどうか。今、祭りや消防団など活動してくれる人が集まらないが、SNSで呼びかけることによって、人が集まってくれるのではないか。また、積極的に参加してもらうために、景品の工夫をしたり、各企業に呼びかけて、国籍を問わずに来ていただけるようにできるのではないか。

歴史的な資料は、放っておくとなくなっていくので、今のうちに、今の世代の人が持っている写真などをデジタルにして保存する仕組みを呼びかける。

【高橋邦夫委員】

B班の協議内容を発表する。

○魅力について

今の良いものを、どんどん継続して魅力アップできることをこちらで考えればよいのではないか。

○特性・個性についてについて

有田区の特性・個性は伸ばしたほうがよいものと、対策をたてなくてはならないものが混在している。有田区の特性で、特にその魅力を直接伝えていく必要があるか、魅力を感じてもらおうような仕組みづくりを何とかできないかということを経験にした。

○次世代に残していきたいものについて

次世代に残していきたいものは、ほとんどが歴史的なものである。有田区は住宅地が多く若い世代が沢山入ってきている。しかし、元々の住人ではないので、自分たちの住んでいるところが、どんなところなのかわからない部分が多い。よく見ると非常に面白い興味のあるものがたくさんある。例えば、各町内でどんど焼きをするが、自分が直接関わるような場面がほとんどない。何とか関われないかということが話題になった。

もともと有田村の歴史が、明治19年に発足して、昭和20年代に直江津市に合併し

ている。せいぜい64年しか歴史がないために資料的なものが整備されていない。それぞれ、有田村になる前の下門前、上源入、下源入、小猿屋等でそれぞれの歴史を持って、伝統的な神事や行事を行っている。そのため、有田区全体のものが無い。そういう全体的なイベントの仕掛けを作るのが1つの考えである。現在の体育大会がそれにあたる。

また、各町内が大事にしている伝統的な行事を「いつ、こういった行事がある。これについては、町外の人参加が可能である。これは、神事だから周りで見ると構わないが、参加は遠慮してほしい」といった情報を一覧にして、例えば、有田区全体に配ると住人にわかるのではないか。それが先ほど言った魅力や特性を伝えていくことになると思う。それを知って、自分も何か関わろうということになると、有田の魅力がさらにアップしていくのではないか。

そういうものを取りまとめて、紹介する、いろいろな活動で有田区のこんなことを知りたい。ところが、公民館講座だけだと限界がある。例えば、5人ぐらい集まったら、そこに誰か知っている人が行って話をしてくれるとか、そんな仕組みができると嬉しいという声も出てきた。

上手く進めるためには、それをコーディネートする団体や組織が必要になってくる。それをどうするかは非常に難しい。町内会長協議会がやるわけにいかないし、有志の会だと多すぎて取りまとめが大変である。

小学校で「地域を知ろう」とか「水を知ろう」とガス水道局などに行ったりする。それを学校だけの学習ではなく、地域にボランティアと一緒に勉強しないかと働きかけたらどうか。

【熊木会長】

各班の報告に対して意見を求める。

【高橋秀樹委員】

どちらの班も共通して言えることは、こうして話をするとたくさん意見は出てくるが、他力から自力にどうやって変えるかを考えないとこうなる。どうやって自分たちが関わって仕掛けてくかがないと前に進まない。B班での話は、そういう体制を作っていないと前に進まないところが一番のネックになる。どこかで、けじめとしてまとめていく中で作っていないと、ただの書き物に終わってしまうことが懸念される内容である。

【熊木会長】

他に意見等を求めるがなし。

本日出された意見は、事務局でまとめていただき、今後も協議していく。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

次回の地域協議会は11月下旬頃を考えている。会長と日程調整の上決まったら、皆さんにお知らせしたい。

【熊木会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。